

# 36.病床稼働率（一般病床）

## 項目の解説

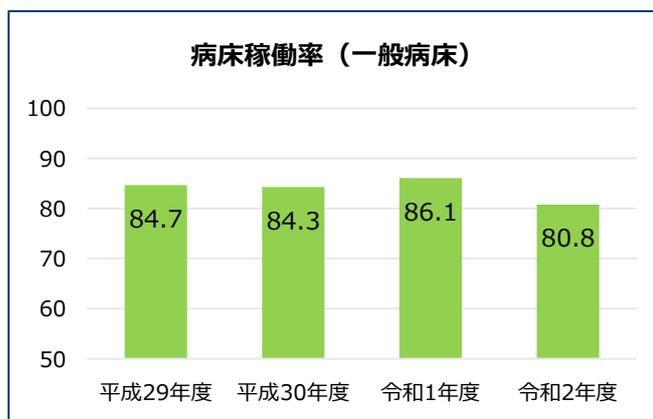
一般病床の運用に関する効率性を表す指標です。ただし、急性期医療を担うために、高度救命センターの機能における空床確保も含め、常に利用可能な病床を提供する必要もあるため値の解釈には注意が必要です。病床稼働率が高いことは、ベッドを効率的に運用していることを表しています。

## 算式

$(\text{「入院患者延べ数」} \div \text{「延稼働病床数」}) \times 100$

## 当院の実績

令和02年度	80.8%（年間）
令和01年度	86.1%（年間）
平成30年度	84.3%（年間）
平成29年度	84.7%（年間）



## 定義

当該年度1年間の、一般病床における病床稼働率です

# 37.病床稼働率（精神病床）

## 項目の解説

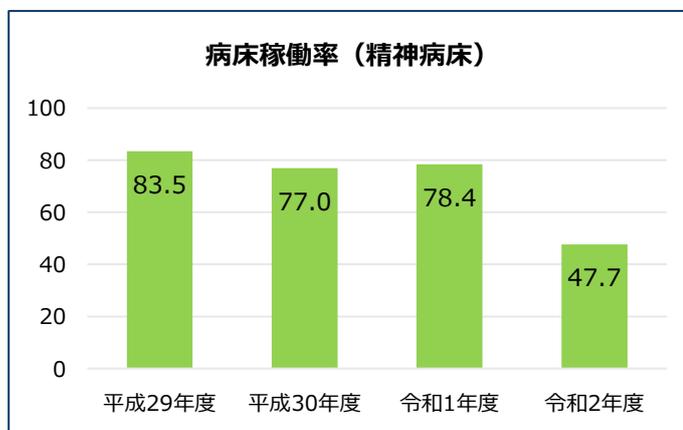
精神病床の運用に関する効率性を表す指標です。ただし、急性期医療を担うために、高度救命センターの機能における空床確保も含め、常に利用可能な病床を提供する必要もあるため値の解釈には注意が必要です。病床稼働率が高いことは、ベッドを効率的に運用していることを表しています。

## 算式

$(\text{「入院患者延べ数」} \div \text{「延稼働病床数」}) \times 100$

## 当院の実績

令和02年度	47.7%（年間）
令和01年度	78.4%（年間）
平成30年度	77.0%（年間）
平成29年度	83.5%（年間）



## 定義

当該年度1年間の、精神病床における病床稼働率です

# 38.平均在院日数（一般病床）

## 項目の解説

患者が一般病床に平均何日入院しているのかを表す指標です。患者の重症度や疾病により違いがあるため単純に比較することはできませんが、急性期病院の治療能力を反映している可能性があり、質の確保と医療の効率化が高いレベルで達成されるほど、平均在院日数は短縮されるとされています。また、病床稼働率（一般病床）と合わせて比較することにより、例えば病床稼働率が上昇し、在院日数が短縮している場合は、地域の医療機関などと連携しながら、急性期医療を効率的に行えていると考えられます。

## 算式

「在院患者延数」÷（（「新入院患者数」+「退院患者数」）÷2）

## 当院の実績

令和02年度	11.10日（年間）
令和01年度	11.70日（年間）
平成30年度	12.30日（年間）
平成29年度	13.10日（年間）



## 定義

当該年度1年間の、一般病床における平均在院日数です

# 39.平均在院日数（精神病床）

## 項目の解説

患者が精神病床に平均何日間入院しているかを表す指標です。患者の重症度や疾病により違いがあるため単純に比較することはできませんが、質の確保と医療の効率化が高いレベルで達成されるほど、平均在院日数は短縮されるとされています。

## 算式

「在院患者延数」÷（（「新入院患者数」+「退院患者数」）÷2）

## 当院の実績

令和02年度	35.5日（年間）
令和01年度	35.8日（年間）
平成30年度	32.1日（年間）
平成29年度	30.9日（年間）



## 定義

当該年度1年間の、精神病床における平均在院日数です

# 40.病床回転数（一般病床）

## 項目の解説

一般病床において、病床当たり、年間何人の患者が利用したかを表す指標です。  
回転数の数値が大きいほど病床の利用頻度が高いと言えます。

## 算式

$$(365 \div \text{平均在院日数}) \times (\text{病床稼働率} (\%) \div 100)$$

## 当院の実績

令和 02 年度	26.5 回（年間）
令和 01 年度	26.94 回（年間）
平成 30 年度	25.05 回（年間）
平成 29 年度	23.63 回（年間）



## 定義

当該年度 1 年間の、一般病床における病床回転数です

# 41.病床回転数（精神病床）

## 項目の解説

精神病床において、病床当たり、年間何人の患者が利用したかを表す指標です。  
回転数の数値が大きいほど病床の利用頻度が高いと言えます。

## 算式

$$(365 \div \text{平均在院日数}) \times (\text{病床稼働率} (\%) \div 100)$$

## 当院の実績

令和02年度	4.9回（年間）
令和01年度	8.03回（年間）
平成30年度	8.74回（年間）
平成29年度	9.87回（年間）



## 定義

当該年度1年間の、精神病床における病床回転数です

# 42.紹介率

## 項目の解説

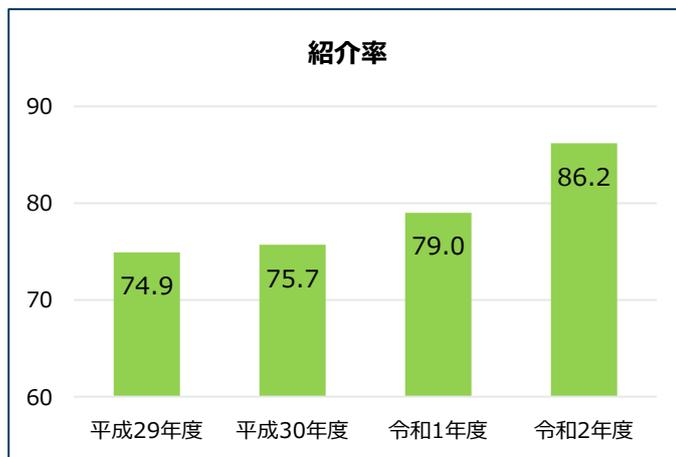
外来初診患者のうち、他の医療機関から紹介状を持参した患者の割合を表す指標です。地域の医療機関との連携の指標であり、これらの指標が高い医療機関は、各患者の病状に応じた医療の提供に貢献していると考えられます。

## 算式

$(\text{紹介患者数} + \text{救急車搬入患者数}) \div \text{初診患者数} \times 100$

## 当院の実績

令和 02 年度	86.2% (年間)
令和 01 年度	79.0% (年間)
平成 30 年度	75.7% (年間)
平成 29 年度	74.9% (年間)



## 定義

当該年度 1 年間の、紹介率です

# 43.逆紹介率

## 項目の解説

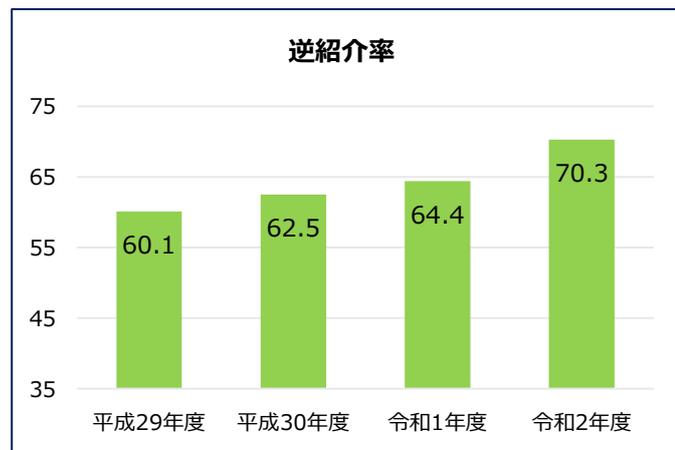
他の医療機関へ患者を紹介した割合を表す指標です。地域の医療機関との連携の指標であり、それらの指標が高い医療機関は、各患者の病状に応じた医療の提供に貢献していると考えられます。

## 算式

逆紹介患者数÷初診患者数×100

## 当院の実績

令和02年度	70.3% (年間)
令和01年度	64.4% (年間)
平成30年度	62.5% (年間)
平成29年度	60.1% (年間)



## 定義

当該年度1年間の、逆紹介率です

# 44. 一般病棟の重症度、医療・看護必度

## 項目の解説

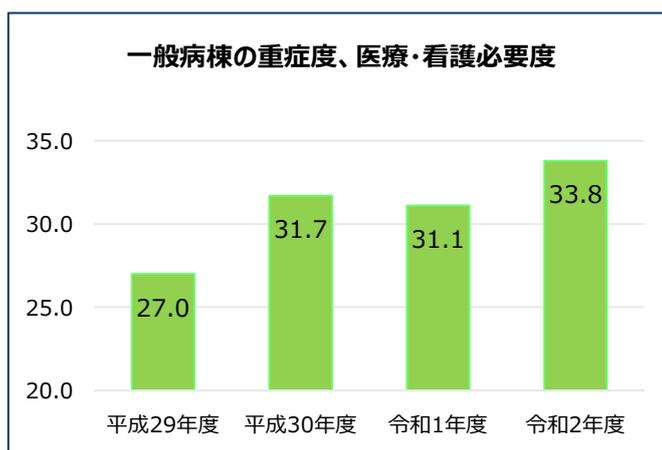
これは、一般病棟における重症度、医療・看護必要度に基づく、重症患者の基準を満たす割合を示す指標です。急性期の入院医療における患者の状態に応じた医療及び看護の提供量を反映する指標になります。重症度の割合が高いことは、急性期医療において、より医療のニーズ（手術・処置など）や手厚い看護（看護の提供量）の必要性が高い患者を多く受け入れていることを表します。つまり、この指標が高い医療機関は急性期医療に貢献していると考えられます。ただし、診療科の構成や ICU の病床数などにも影響を受けやすいため、目安の一つとして捕らえる必要があります。

## 算式

(A 項目 2 点以上かつ B 項目 3 点以上、A 項目 3 点以上または C 項目 1 点以上の該当患者延べ数) ÷ 一般病棟在院患者延べ数

## 当院の実績

令和 02 年度	33.8% (年間)
令和 01 年度	31.1% (年間)
平成 30 年度	31.7% (年間)
平成 29 年度	27.0% (年間)



## 定義

一般病棟の重症度、医療・看護必要度

# 45.後発医薬品使用率（数量ベース）

## 項目の解説

後発薬品切替可能薬品のうち、実際に消費した後発医薬品の数量に占める割合を表す指標です。後発医薬品の普及は、患者の自己負担の軽減や医療保険財政の改善に資するものとなります。この指標により、政府が定める数量シェア目標にどれだけ貢献しているかを示すことができます。

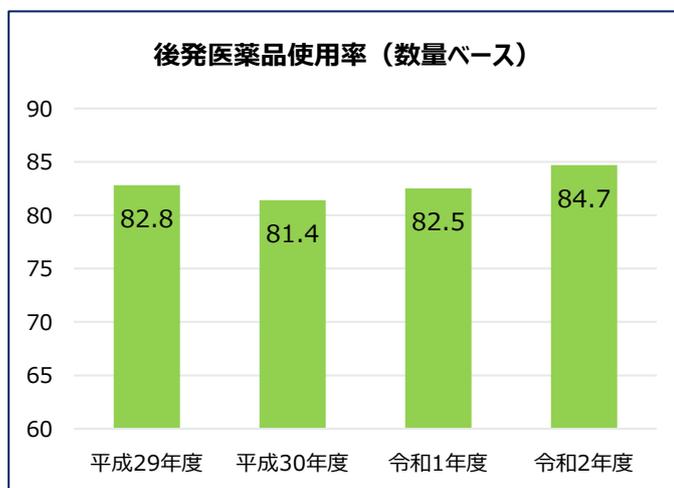
## 算式

後発医薬品使用率 = (後発医薬品使用数量 ÷ 後発医薬品切替可能数量 (※)) × 100

※後発医薬品切替可能数量 = 後発医薬品のある先発医薬品の使用数量 + 後発医薬品の使用数量

## 当院の実績

令和02年度	84.7% (年間)
令和01年度	82.5% (年間)
平成30年度	81.4% (年間)
平成29年度	82.8% (年間)



## 定義

当該1年間の入院における後発医薬品使用率です。

(平成30年度からは入院・外来における後発医薬品使用率となります)

# 46.業務損益収支率（病院セグメント）

## 項目の解説

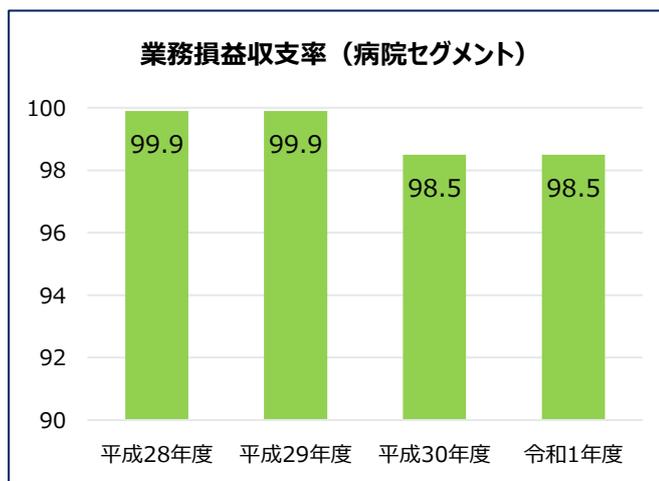
当該年度 1 年間の、業務損益収支率です。

## 算 式

財務諸表（損益計算書）の経常収益、経常費用から算出  
(経常収益÷経常費用) ×100

## 当院の実績

令和 01 年度	98.54% (年間)
平成 30 年度	98.5% (年間)
平成 29 年度	99.9% (年間)
平成 28 年度	99.9% (年間)



## 定 義

毎期反復して行われる経常的な活動に伴う収益と費用の関係を表す指標です。

# 47.債務償還経費占有率

## 項目の解説

当該年度 1 年間の、債務償還経費占有率です。

## 算式

(設備整備債務償還経費 (PFI 活用も含む) ÷ 診療報酬請求金額) × 100

## 当院の実績

令和 01 年度	8.39% (年間)
平成 30 年度	8.81% (年間)
平成 29 年度	8.95% (年間)
平成 28 年度	7.63% (年間)



## 定義

収益に占める債務償還経費の割合を表す指標です。

# 48.院外処方箋発行率

## 項目の解説

院外薬局へ処方箋を発行した割合を表す指標です。

## 算式

外来処方箋枚数（院外） ÷ （外来処方箋枚数（院外） + 外来処方箋枚数（院内）） × 100

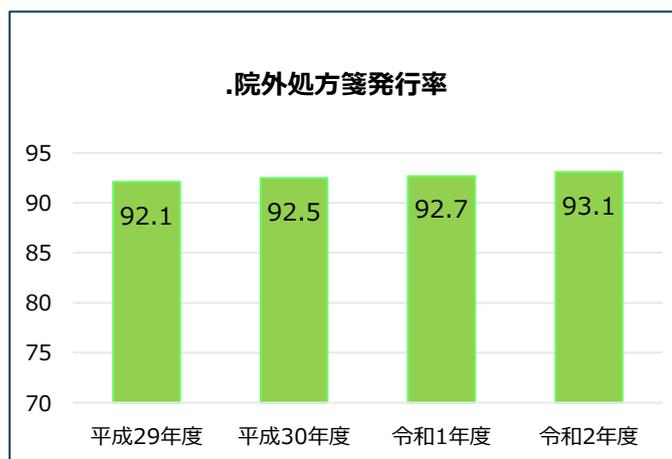
## 当院の実績

令和 02 年度 93.1%（年間）

令和 01 年度 92.7%（年間）

平成 30 年度 92.5%（年間）

平成 29 年度 92.1%（年間）



## 定義

院外薬局へ処方箋を発行した割合を表す指標です。